

個別事業説明書【PR版】

南予地方局



1 南予地域鳥類被害低減促進事業費(南予)

南予地域は、鳥類によるかんきつ被害が県内最大で深刻な被害状況にあるが、有効な対策に乏しいため、近年、有効性が確認され始めた高周波技術等を活用した「音のバリア」による新たな手法をモデル的に導入して、高級柑橘類等に対する鳥類被害を低減し、かんきつ王国えひめの維持・発展を図る。

お問い合わせ先
南予地方局農林水産振興部
八幡浜支局産地戦略推進室
(0894-27-0329)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値 1,226億円 (R2年) 目標値 1,200億円 (R8年)
	細施策	17-4 農業の生産振興 KGI 主な農産物の生産量(各振興計画に記載のある主要品目)	現状値 316千t (R4年度) 目標値 338千t (R8年度)

事業イメージ	KPI	モデル園地の鳥類による果樹被害割合 (対R4年度の半減を目指す)	現状値 12% (R4年度)	目標値 6% (R7年度)			
			単位: 千円				
鳥類被害額	鳥類	合計	南予	八幡浜管内	東予	中予	課題 ▶鳥類は上空から園地に侵入。立体的な対策が必要 ▶コスト面等を含め有効な既存対策に乏しい
		71,647	51,021	32,896	13,171	7,455	
	ヒヨドリ	39,676	28,657	21,708	7,611	3,408	
	カラス	31,075	22,070	11,018	4,968	4,037	
	その他	896	294	170	592	10	
管内の鳥類被害額は、 県全体の約46%を占め、県内最大 過去5年間の被害額も、横ばいで 高止まり							

- ### 事業概要
- 南予地域鳥類被害対策検討会の開催 184千円**
鳥類被害の実態等を把握・共有するとともに、高周波技術等による被害低減対策等を検討し、広域的な取組みに繋げる。
(1) 構成メンバー：岡山理科大学、専門事業者、猟友会、JA、市町、県等
(2) 開催時期：5月、10月、2月
 - 鳥類忌避技術の導入 1,764千円**
「音のバリア」による新たな手法をモデル園地に導入し、効果的な対策を図る。
(1) 対象鳥類：ヒヨドリ、カラス等
(2) 導入技術：高周波音、鳥類警戒声
(3) モデル地区：八西地区3ha(温州みかん1箇所、中晩柑2箇所)
(4) 実証内容：
① 効果の高い設置条件の実証
高周波帯域、位置、角度、音量等の調整・設定
② 実証手法
○モデル園地と未設置園地における食害量の比較
○高周波装置の設置場所からの距離に応じた食害量の比較等
(5) 実施期間：8月～2月
 - 実装に向けた忌避技術の研修 98千円**
生産者等を対象に実証結果の共有や現地研修等を実施し、普及を図る。
(1) 対象者：生産者等100名程度
(2) 開催時期：10月、2月

実証

全国初!! 高周波音と警戒声を活用したかんきつ園地での鳥類対策

高周波音 + 鳥の警戒声
音のバリア
モデル園地
「岡山理科大学」等との技術連携
鳥類による被害状況
スピーカー
制御ボックス
ソーラーパネル
高周波装置

バードストライク対策の効果事例を基に、**かんきつ園地での被害半減**を目指す

ブランド温州みかん、高級中晩柑類の鳥類被害を低減

新技術が広く産地に普及 ⇒ 「かんきつ王国えひめ」の維持・発展